

『 ナーシング祭 企画・運営 ～新しい保育の形～ 』

こども保育科 3年 今村 琴音 門 あかり 久保紀々加 新田 有彩

【はじめに】

近年、文部科学省の調査により、通常学級に在籍する子どもの約1割に、学習面や行動面で困難を示す発達障害の可能性があることが明らかになっている。それに伴い、障害を持つ子どもたちを支える療育施設も増えている。これまでに経験した実習を通して、様々な個性を持つ子どもたちと出会い、一人ひとりとかかわる大切さを学んだ。

そこで今回、「一人ひとりと向き合うとはどういうことか」に着目し、ナーシング祭の企画運営を行った。

【連携企業】

株式会社 Nursing

名古屋市の生活介護・就労継続支援B型・放課後等デイサービス・児童発達支援など様々な福祉事業を営んでいる。

【方法】

実施日：2023年 11月11日（土）

実施場所：ナーシング前後校

実施時間：10:00~16:30

参加人数：1年生20名 3年生4名

ナーシング職員、通所児童 複数名

実施内容：学生と通所児童が協力をしてナーシング祭を開催した。生活就労Bを含む5つの事業所において、それぞれ、人間すごろく、小物屋さん、魚つりやさん、くじやさん、ガチャガチャ・フラクフルトに分かれて、お店屋さんを行った。開催にあたり、学内にて事前講義を受けたのち、子どもとコミュニケーションを図るため、各事業所を訪問し、打ち合わせを行うとともに、景品づくりを通して交流を深めた。

【結果】

・当日の人の多さや環境の変化から、気持ちを崩してしまい、母親に迎えを頼むことになった児童がいた。

・発達に遅れや感覚過敏を持っているため、本来同じ場所に続けることを苦手とするが、各自役割を与えていたからこそ、その場で活動に参加し続けることができた。

・子どもが主体となって活動をし、家族や学校の先生、職員以外の大人たちと関わることで、コミュニケーション能力の向上や、人とかかわり方を学ぶことができた。

【考察】

様々な個性を持った子どもたちがいる中で、これまでの実習経験から子どもの興味・関心をもとに、身近なキャラクターを提案したことで、子どもたちも楽しんで準備や本番を迎えられた。

今回のナーシング祭を通して子どもたち一人ひとりに目を向け、子どもの考えや気持ちを尊重することが、「楽しい」、「やってみたい」を引き出すことができるのではないかと気付いた。

一人ひとりと向き合うとは、その子なりの表現や、思いを認め、子どもの成長を願いながら、ねらいや目標を立てて関わることであると考えている。保育のマニュアル化をせず子どもたちの心に寄り添っていきたい。

指導教員：荒川 琴未 櫛田 英代